

中央教育審議会教育振興基本計画部会 提出書面

吉田 都

#### イギリスでの経験を通じて感じたこと

― 若い頃イギリスで日本の世界における振る舞いについて詰め寄られたことがありました。指摘されたのは近現代史に当たる時期に関するもの。当の日本人であるにも関わらず、事実をきちんと理解していなかったことに恥じ入りました。対してイギリス人は自国の歴史や文化を正しく認識し、語る事ができていたように思います。

この経験は私だけでなく、多くの日本人留学経験者にあることと思います。それは長く行われてきた、受験に臨むための暗記中心の教育が一因ではないかと思うのです。確かに受験突破も重要ですが、自国の歴史や文化といった教養を学生のうちにしっかり身に付けさせるという目標でも教育を行っていただけたら、海外に出て恥をかく日本人が減少するとともに、日本を知る機会を得る海外の人々も増えるのではないのでしょうか。

― イギリスの学校では、どのような場面においても必ず生徒に感想を求めます。その感想に模範解答は無く、個人個人で異なるのが当然。教師は生徒の発言をポジティブに受け止めます。そうすると、何に関しても自分の意見を持ち、意見交換することが当たり前になっていきます。

対して日本は基本的に受け身型の授業であり、数少ない発言機会も教師が求めている解答と異なる発言をした場合、発言が否定され、恥ずかしい思いをします。生徒はそれを回避すべく、教育者が求める正解が何であるのかを模索し、できることなら皆の前で積極的に発言することを避けるようになっていきます。

このような教育に慣れてしまうと、咄嗟に意見が求められても返すことができなくなっていくでしょう。海外では自分の意見を持たない人間の評価は著しく下がります。ですから、何事にも自分の考えを持ち、自己肯定感ある人間を育てることを目指してほしいところです。

― 多くの日本からの留学は長くても1年という期間で行われますが、留学の効果は長期に滞在することで上がります。私も長くイギリスに身を置き、生活者となったことで得られたものが大きかったと身に沁みて思います。また、数年間にわたり海外に滞在した多くの帰国子女が、留学経験者に比べて現地の生活感、文化を大いに吸収していることでもご理解いただけたと思います。

留学の長期化の実現のためにはまず、長期滞在することを躊躇しないような制度設計が

必要と考えます。日本では高校3年生の18歳で大学受験をするのが当然と考えられており、これを妨げてしまう留学に躊躇するケースが少なからず存在しています。このハードルが下がれば長期に海外に出ていく学生の増加につながるのではないのでしょうか。

次に、帰国後のフォローアップ体制の構築です。すなわち、留学中に得たものを日本で活かすことができるような仕組み作りです。これが無いと、これからの日本に必要とされる優秀な人材の国外への流出を招きかねません。

### 日本で活動して感じたこと

— 私が舞踊芸術監督を務めている新国立劇場では、学校単位で公演を鑑賞する機会を設けておりますが、その入場料は生徒の保護者の負担によるものです。つまり、負担能力があるご家庭のお子さんのみ芸術に触れる機会が与えられているのです。

日本は芸術を過剰なまでに「高尚なもの」とし、敷居を高くしてしまっているがために、皆が気軽に触れることができないものになっております。子供のうちからこのような状況ですと、今後も芸術の裾野の広がりには期待できません。本来、芸術は人間の心の豊かさや生きる力を生み出すために、誰にとっても必要不可欠なものであるべきです。日本の文化を発展させる目的で設立された新国立劇場としては、すべての子供たちに先入観なく本物の芸術に触れてもらい、大いに刺激を受けていただく場を提供していきたいのです。

— これまで、数多くの日本人ダンサーを指導してきて感じることは、決められたこと、教わったことはきちんとこなすことができるのですが、その上で求められる創造性に関しては外国人ダンサーより著しく劣っているということです。

おそらく披露した自分の思いに対して指導者から間違いを指摘され、恥ずかしい思いをする懸念より、一步踏み出す勇気が持てないことが大きな要因だと思います。これも日本の教育の影響を受けている部分であり、歯がゆさを覚えます。

— 日本はこれまで海外から良いものを取り入れながら文化を発展させてきましたが、器用に模倣しているだけで、根幹まで理解しているのか疑問に感じる場合があります。バレエもその一例で、発生した歴史や背景など、バレエの本質を理解しないまま表面上の解釈のみに頼り、間違った方法で教えているバレエ教室が一定数存在しています。また、日本での公演においては、必要となる専門的人材が十分に育っていないため、海外に求めなければ質の良いものが望めないという現状もそれを反映しております。

何事も根幹を理解しないと応用が利かなくなり、新たに何かを生み出すことができないため、それ以上の発展が望めなくなります。日本の文化の発展という観点から、深く知り、考える教育を目指していただきたいと思います。